授業科目	子どもと表現(2 年制コース)					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	山路　麻佳						
授業概要	子どもたちは日々の生活の中で様々なものに興味をもち、五感を働かせながら感じたことを身体や身近なものを使って表現している。 本科目では、領域「表現」の位置づけとねらい及び内容について理解し、子どもの表現の発達、それを促す環境などの要因について映像や具体例を通して理解を深め、子どもの感性や想像力を育む表現遊びや環境の構成について考える。 また、身体の諸感覚や身近な素材を使った表現活動を通して、子どもの表現活動を支えることができるよう自らの感性と表現力を身に付ける。						
授業形態	講義				授業方法	授業内で適宜グループワークの形をとる	

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における領域「表現」のねらいと内容について理解できる。 子どもの表現の発達について理解し、それを促す要因を理解し、感性・想像力を育む表現遊びや環境の構成についての知識・技能を身につけている。 身近な素材を諸感覚で感じ取り、表現することができる。
理想的レベル	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における領域「表現」のねらいと内容について十分に理解できる。 子どもの表現の発達、それを促す要因を理解し、感性・想像力を育む表現遊びや環境の構成についての知識・技能・表現力を身につけ、実践することができる。 身近な素材を諸感覚で感じ取り、素材の特性を活かして表現を工夫することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト	30%	
レポート	30%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%	
レポート外の提出物		
その他	10%	授業での発言や質問など、積極的な参加姿勢

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	CH11306J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
配布したプリントや学習した内容をノートにまとめて理解を深める。	4

授業計画

第 1 回	テーマ：オリエンテーション 授業の概要、評価方法について理解する。

	領域「表現」の位置づけと、ねらい及び内容について理解する。
第 2 回	テーマ：領域「表現」のねらい及び内容 幼児教育で育みたい資質・能力と保育者の役割について理解する。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読みとき、児童期への学びの連続性について理解する。
第 3 回	テーマ：乳幼児の表現の発達 映像や具体例を通して、乳幼児の発達段階に応じた表現について理解する。
第 4 回	テーマ：声・身体による表現 身体の諸感覚の発達を促す表現活動について学ぶ。
第 5 回	テーマ：素材から生まれる表現 様々な素材を諸感覚を使って感じ取り、素材の特徴や表現の面白さ、留意点等を考え理解を深める。
第 6 回	テーマ：環境と表現 日常にある環境音を見つけて音・物と向き合い、グループで表現方法を考える。
第 7 回	テーマ：音楽教育メソッド ダルクローズのリトミック、コダーイとわらべうたについて学ぶ。
第 8 回	テーマ：まとめ これまでの振り返りとまとめを行う。
テキスト	『平成 29 年告示　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	島田由紀子・駒久美子編著『コンパス 保育内容表現』建帛社 駒久美子・味府美香編著『コンパス 音楽表現』建帛社
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点後、授業内で返却します。
学生へのメッセージ・コメント	配布したプリントや学習した内容をノートにまとめて理解が深まるように努めてください。 自身の感性・表現力を身に付けるために、日々の生活の中にある身近なものや音などに関心をもって意識して過ごしましょう。 また、実習の際に子どもや保育者の姿をよく観察してください。